

# 主テーマ……「生涯学習活動について」

## (1) 受講者としての体験発表

ご紹介頂きました、亀田老人大学に在籍中の飛田ですが、自己紹介については、最後に述べさせていただきます。

高齢者を対象とした、これからの人生を生きる為の教養を深める、このような生涯学習講座は、今度も継続して開催することを希望いたします。

- 今回、受講で感じた個人的な感想を、特に印象に残っている事項について述べさせていただきます。

### 第1回目の保坂武道氏の……

-----カウンセリングや教育課題とコミュニケーションについて-----

私には非常に難しいテーマでしたが、一言でいって「聞き上手」になる事と思いました。

私は、自分の考えや気持ちをしゃべる事は苦になりませんが、相手が理解出来るように発言する、相手の気持ちを考えながらか言う事が出来るかが非常に難しいです。

特に相手の発言を誤解しないで、相手の気持ちを考えながら聴く事の、「傾聴」の訓練を受ける必要があると感じました。

### 第2回目の弘田義江氏の……

-----「自分の死を認めて生きる大切さ」-----

-----リビングウィル(尊厳死)、終末期医療の有り方-----

については、義父の終末期医療を自ら経験しておりましたので、非常に共感いたしました。

特に……①自分の死を自分の意志で決めることが大切である。

②自分が健康な時に子供達や親族に対して、自分の死への選択を前もって十分に話題にして明確（文書に残す）にしておく。

その他…③自分なりに認識していましたが、認知症予防、成人後見制度

④孤独感、孤立感への対応 ——聞いてくれる人がほしい——

(傾聴ボランティア活動の必要性について)

### また、第7回目の鎌田佳勝氏の講座では……

「老後の助け合いの有り方」の内容について紹介されていましたが、市町村の取組みに頼らないで、完全な民間の相互互助ボランティア団体は、今後の少子高齢化と地域の街づくりの町内会活動が、非常に大切と感じました。

このような講座に積極的に参加されている皆様方は、これらへの対応を事前に十分に考慮していることと思います。

\* その他の講座テーマも、一般教養講座として「知らない事を知る事の喜び」を十分に満足できる内容と思いました。

\* しかし、一般教養講座は自分だけの教養を深めるのではなく、知識を知ったかぶりに受取られないように注意して、子供やお孫さん、または友人へ「伝える---話す(口で伝える---口伝)」

また、自分が興味を持った事柄については、自分なりに調査・分析などを行い、それについて「記録・整理して伝承」することも非常に大切と思います。

**少しでも、自分が知り得た「一般教養の事柄」は、広く共有するように心掛けて努力する事が大切ではないでしょうか！**

ただ、今後もこの様な講座を継続して開催し、沢山の受講生を集めるためには、講座テーマの立案が大切と考えておりますので、十分にご検討していただきたいと思えます。

## (2)生涯学習活動の有り方について

基本的には皆様方の受講生は、第一線を引退された男女であり、生涯学習における活動の一つとして参加する人が多いとおもいますが……。

- ①若い頃からの趣味を継続するために活動する人。
- ②地域社会活動や町内会などの地域活動をする人。
- ③純粋に社会奉仕のボランティア活動を行う人。
- ④現役時代には実施出来なかった新しい趣味へ挑戦する人。
- ⑤自分の特徴・特技（ナンバーワン/オリーワン）で活動する人。

（「インストラクターの会」など）

### 私の老後の生き方について(心掛けている事)

生涯学習 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 知る喜び (知識欲)

//

//

外に出る (ストレスがある)

行動する

//

//

人とのコミュニケーション (脳の活性化)

伝承 (口伝) する

//

他人の良い面を見る。

(自分と比較して、その人の良い面を知る ⇒ 出来れば吸収する)

## 何故必要か！／大切か！

私なりの個人意見を述べさせていただきます。

- ・ **独居および孤独な高齢者への対応。**  
(一人暮らしの老人、地域社会との交流を求めない老人への対応)
- ・ **核家族から地域コミュニティー(町内会活動)としての交流。**  
(子供のいる若い家族を、高齢者を含めた地域全体で交流する)
- ・ **市町村に依存しないで、それぞれの個性を尊重した互助活動。**  
(画一的な運営をする市町村へ不満を出すよりも、自主的な運営により特徴を明確に示し、独自性のある相互互助活動により、「遠い家族よりも近くにいる他人」による助け合いが必要である。  
[NALC (ナルク) 函館 はまなす] のような相互互助活動。

## 生涯学習活動の有り方として、私が尊敬し、見習いたい人について、お話させてください。

事前にその人のご了解を得ておりませんので、お名前は申しませんが、

- 昭和元年生れで80歳過ぎてから、自ら進んで亀田老人大学の生涯学習活動へ積極的に参加し、いろいろなクラブ活動やクラス仲間との交流を図っています。
- また、晴天の時は深堀町から亀田福祉センターまで荷物運搬型の自転車で通学しています。私の義父も85歳位までは、山の手から花園湯までを自転車で通っていましたが、距離が違います。
- その上に、私は書道と習字の違いは判りませんが、完全なボランティアとして、子供達へ書道を教えている事です。
- もっと凄いのは、奥様が亡くなられてからも、自宅にお一人でお住まいして、毎日、自分で料理を作り、晩酌を楽しんでいる事です。

これこそが、これからの高齢化社会における生き方として、私は尊敬すると共に、見習いたいと願っています。

ただ、クラスの仲間と一緒に飲み会を開催すると、少し飲み過ぎるよう感じますので、自重してくださるようお願い申し上げます。

私も現在は極力、自立して生活するように心掛けていますが、なかなか実践する事は難しいです。

さて、ここに受講されている皆様方の中には……

**\* 素晴らしい技術・技能のお持ち方**

**\* オンリーワンの特技を所持されている方**

が沢山おられると思います。

皆様方は、既に積極的に生涯学習活動を実践されていると思いますが……。

- もし、まだ、受身的に講座を受講しているだけの方がおりましたら、自分の持っている個性を発揮してほしいと思います。

- 私のように何も技術・技能が無い者でも、後で述べますが、「行動力」を出して、少しは前向きな生涯学習を実践しているつもりです。
- 特殊技能や技術をお持ちの方は、「インストラクターの会」などに、、、、登録されまして、行動的な生涯学習活動を実践して頂きたいです。

### (3)「函館の歴史を学ぼうかい」の紹介について

- 生涯学習活動として、私達の「函館の歴史を学ぼうかい」について、紹介させていただきます。
- 後のテーブルに会員募集と、会を紹介する資料を置いておりますので、興味の有る方は、資料を持ち返って頂きたいと思います。
- さて、
  - \* 函館生れで、函館育ち、一度も函館を離れた事の無い方は、どの位おられるでしょうか？
  - \* 「柿村トメ」さんの名前を聞いた事のある方は？
  - \* 「斎藤信郎」氏の名前を聞いた事のある方は？
- 私も昨年までは、この方々のお名前は知りませんでした。ここで、少し自己紹介をさせていただきます。  
私は横須賀生れで、終戦前に函館へ引き揚げて来てから松風小学校、中央中学校、函工を卒業して、東京で43年間仕事に従事し、「終の棲家」として函館に戻って来ました。
- しかし、「終の棲家」とした函館の街を私は殆ど知りませんでした。

### 皆様方は如何でしょうか！

私は多感な幼少期と少年時代に住んだ函館に戻って来て、そして「終の棲家」と決めた函館（道南）の歴史・文化・方言等の「地方の特徴や自然・環境」などを知りたいと思いました。

- その講座を受講する中で、**小林 肇氏**と出会いました。
- 私は、小林 肇氏の情熱と行動力の押しの一手に負けてしまいました。
- 結果として、函館生まれで無い3名が、函館市生涯学習課**阿部美雪主査**と小林肇氏、そして私達の会の顧問になって頂いている南北海道史研究会会員である「**近江幸雄**」氏のご協力により、「函館の歴史を学ぼうかい」を平成20年度から開催しております。
- そして、本当に沢山の人達と知り合い、私の老後における生涯学習活動の大きな成果となっており、何の技術も技能もない私ですが、「行動力」を少しだけ出したただけです。

最後に、前向きで、気持も若い皆様方と共に、私もこれからも持ち続けたいので、この講座で紹介され「**サミュエル・ウルマン**」の「**この言葉**」を皆様方へささげて終りといたします。

**若さとは……………心のあり方のことだ。**

**若くあるためには……**

- \* 強い意思力と、優れた想像力と、激しい情熱が必要。**
- \* 小心さを圧倒する勇氣と、易きにつこうとする心を叱咤する冒険への希求がなければならない。**
- \* 不屈の闘志、子供のような好奇心**
- \* 信念に比例して若く、疑いに比例して老いる。**
- \* 自信や希望に比例して若く、恐れや絶望に比例して老いる。**
- \* 理想を失うときに老いるのである。**

**保阪武道講師の言葉**

**熟年……………一徹して何かにハマルこと。**

**老人という言葉は、皆様方には不適切である。**

ご静聴、ありがとうございました